

科目名	健康・医療心理学			ナンバリング	PSY442	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	林洋一	担当教員	○林洋一				

授業の概要	現代社会に生きる私たちにとって、「ストレス」という言葉は誰でも知っている日常語になっている。しかし、その健康に与える影響や心理・生理的なメカニズムは意外に知られていない。この講義では、ストレスと心身の疾病との関係、医療現場における心理・社会的な支援、大きな災害に直面した人々に対する心理的支援について述べる。また、心身の健康の維持・増進を図るために必要な知識、技術について学び、それらを社会生活に生かすためにはどのようなことが必要かについて考察する。
到達目標	1. 健康・医療と心理学との関連性について理解し説明できる。 2. ストレス、とくに心理社会的ストレスについて理解し説明できる。 3. 医療従事者と患者、患者の家族との関係を適切に理解し、説明できる。 4. 災害時における緊急支援・中長期的支援を理解し、説明できる。 5. 公認心理師としての業務を行うときに必要な「心理学的知識・技術」を修得する。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	人間のこころについては、自然科学とは異なる方法で理解し解釈することが求められる。また、人文科学的・社会科学的視点から、健康・医療に関する諸問題を幅広く考察することも必要になる。さらに、自分自身について、他者についての認識を深め、よりよい人間関係を築く方法について学ぶ。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 健康・医療心理学に関する基礎的な概念を理解し、まとめ、整理することができる。 2. 健康・医療に関わる専門職として必要な心理学的知識・技術を持っている。	1. 健康・医療心理学に関する高度な知識、技術を持ち、それらをまとめて整理することができるだけでなく、日常生活や医療現場等における実践に生かすことができる。 2. 心理学的な知識や技術を理解しているだけでなく、それらを医療実践や社会生活の中で生かすことができる技能を身に付けている。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○	○	○		70%
小テスト・授業内レポート	○	○					10%
宿題・授業外レポート	○	○					10%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	課題レポートは、manabaを用いて提出する。また、フィードバックはmanabaを用いる場合と、授業時に受講者全員を対象に行う場合がある。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	健康・医療心理学とは何か	健康・医療心理学とは何か、それは医療従事者にとってどのような意味を持つかを理解し、その概要を説明することができる。	
	第2回	健康と疾病・障がいの心理①	健康、疾病、障がいという概念を整理し、その内容を説明できる。また、健康な時とは異なる患者の心理について説明できる。	
	第3回	健康と疾病・障がいの心理②	健康、疾病、障がいという概念を整理し、その内容を説明できる。また、患者の個人差を理解し、その患者に応じた対応を考えることができる。	
	第4回	医療従事者と患者・家族との人間関係	医療従事者が患者や家族と接触する時に必要な心理学的な知識・技術について整理し、よりよい接し方について意見を述べることができる。	
	第5回	ストレスと心身の健康①	ストレス、ストレスラー、コーピングなどの諸概念を理解し、その心理学的な意義について意見を述べるすることができる。	
	第6回	ストレスと心身の健康②	ストレス、ストレスラー、コーピングなどの諸概念を理解し、その心理学的な意義について意見を述べることができる。	
	第7回	ストレスと心身の健康③	ストレス、ストレスラー、コーピングなどの諸概念を理解し、その心理学的な意義について意見を述べることができる。	
	第8回	災害時の心理的支援①	巨大な災害に直面した人々に対する緊急支援について理解し、説明することができる。	
	第9回	災害時の心理的支援②	災害時の緊急支援に続く中・長期的な心理的支援について理解し、説明することができる。	
	第10回	精神療法①	精神療法とは何かを理解し、その概要や技法の特徴、および効用と限界等について説明できる。	
	第11回	精神療法②	精神療法とは何かを理解し、その概要や技法の特徴、および効用と限界等について説明できる。	
	第12回	認知行動療法	近年、うつ病の治療等で注目されている認知行動療法とは何かについて理解し、その概要および効用と限界等について説明できる。	
	第13回	子どもへの心理的支援	子どもに対する心理的支援を行うときには、成人とは異なる配慮が必要になることを理解し、説明することができる。	
	第14回	対象喪失	愛する人を喪った人間の心理について対象喪失という視点から考察し、自分の意見を述べることができる。	
	第15回	まとめ	これまでに学修してきた内容をまとめ、整理することができる。	
		試験	試験を行う。	
授業の進め方	基本的には講義形式であるが、講義テーマに関係する資料映像を視聴したり、受講者全体で討論することがある。			
授業外学習の指示	授業時に指示されたテーマについて、次回授業時まで各自で調べたり、まとめて整理する。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	使用しない。
参考書	講義時に指示する。
参考URLなど	講義時に指示する。
その他	講義時に提示された資料映像を基に、自分の意見・考えをまとめてレポートを提出することを複数回予定している。